

卵巣嚢腫を漢方で治療された方。

これまでの松本医院での治療履歴。

「卵巣嚢腫手記と松本医院での治療記録」 匿名希望

48 歳

2016 年 5 月 25 日

2015 年 1 1 月

私の卵巣嚢腫は肝臓の定期検診（B 型肝炎ウイルスに感染後、陰性になったが、経過観察として半年に 1 回検診に通っています）にて腹部エコーを撮った際に発見されました。半年前に比べて大きくなっているとのこと（確か 0.5 cm が 1 cm になったと思います。）肝臓の先生には、専門の科にかかるように言われました。（子宮がん検診にかかっている婦人科の先生宛に紹介状を書いていただきました。）

悪性かどうかの検査は早めにした方がよいと言われたため、婦人科に行く前に、その足で松本先生の所へ行きました。松本先生にお話しすると、卵巣がん特有の血液検査をしてくださり、結果的には悪性の心配はないとのこと、その後卵巣用の白っぽい煎じ薬をだしてくださいました。（かゆみをとる煎じ薬と併用。個人的にはこの煎じ薬は飲みやすかったです。）

2016 年 4 月

毎年四月に受けている、子宮がん検診に行った際に、婦人科の先生に紹介状を渡し、子宮と卵巣の内部をエコー検査していただきました。婦人科の先生は「うーん??」と首をかしげ紹介状を見直され、「嚢腫があるのは左側ですよね?」と確認されました。どうやら嚢腫がみつからないようで、その後のお話では、「今回は体の内部からのエコーなので、体の表面からのエコーに比べてしっかり診ましたが、特に問題ない。生理の前に嚢腫のように見えることもあるしね。」とのことでした。私は「松本先生の煎じ薬のおかげや!」と直感しました。薬も出されず、ひとまず経過観察でよいとのこと。「卵巣嚢腫」でインターネットで検索すると、「だんだん大きくなって、大きくなると手術が必要」とか「大きくなると突然ねじれて激痛が襲う」などと書かれてあって、かなり怖かったので、小さくなった（またはなくなった）のならこんなありがたいことはありません。松本先生、本当にありがとうございます。

ここからは自分の覚書のためにも、先生のところへお伺いしたきっかけやこれまでの状況など書いておきたいと思います。私の両親はともに薬嫌いで、風邪をひいたら「暖かくして早く寝なさい」、転んですりむいたら「お水でよく洗いなさい」と言っていました。こんな感じで、薬のたぐいはほとんど飲むことなく育ちました。薬を飲まずに済んだのは、もちろん、大病も大けがもなく生きてこられたおかげなのですが、手術、入院もなく病院にかかった記憶もほとんどありません。ただ、アレルギーの自覚はありました。金属アレルギーで、イヤリングや指輪にかぶれる、化粧品にかゆくなる、春と秋にはのどがイガイガする（これは後から気づいたことです）。あまりひどい症状ではなかったため、化粧品は自然素材にかえる、アクセサリーは18金にするなどの対処でやはり薬は飲むことなく現在に至りました。

<きっかけ～手荒れ>

2008年秋

寒くなると指先が荒れ、冬の間は少し痛むようになりました。1年くらいそのまま様子を見ていましたが、夏の間は大丈夫なのに、寒くなるにつれ荒れがひどくなりました。乾燥が原因かと思い、ハンドクリームは使わず、（化粧品と同等に中身が不安だったので）ワセリンのみを塗っていました。ワセリンで乾燥は防いでも一向に治る気配がなく、ついに皮膚科に行こうと思い立ちました。インターネットでたしか「高槻市 皮膚科」で検索し、たどり着いたのが松本先生のところでした。（後日、先生のところでワセリンもよくないと知り、速攻やめました。）

松本先生のところに行こうと思ったのは「ステロイドを使いません」の文字でした。ずっと昔、母の読んでいた雑誌の中に、アトピー性皮膚炎の闘病記が載っており、そこに「ステロイドは恐ろしい薬である」と書かれていたのをなぜかよく覚えていたからです。松本先生は怖い先生だとHPの手記にはありましたので緊張はしましたが、自分の行くところはここしかない！と確信していましたので、勇気を出して来院しました。家から通いやすかったのもよかったですと思います。私は本当にラッキーでした。

実際にお会いした先生は、思ったより怖くありませんでした。煎じ薬と赤い塗薬、傷ができたときに塗る「エルタシン軟膏」をいただきました。1年以上放っておいたので、すぐに治るわけがないと覚悟していたし、（逆にそんなすぐ治ったらかえって怪しいぐらいの気持ちでした）いつか治るといいな～ぐらいの感じで松本先生の出してくださる煎じ薬を飲み、赤い薬を塗りました。手荒れも痛みがひどいわけではなかったのですが、わりとのんびり構えていたのですが、結局すっかり治ってしまいました。先生、本当にすごいです。

<片頭痛>

最初の診察のときに、「手荒れの他に気になる症状がありますか？」と聞いてくださり、片頭痛がひどいことを伝えると、先生は「それはヘルペスやな」とおっしゃって、「アシクロビル」を出してくださいました。片頭痛はそれこそ小学生からの持病で、歳をとるにつれて少しずつひどくなってきていました。鎮痛剤までは必要なかったの（以前、市販薬を飲んだときに、痛みはとれたものの、ナチュラルハイになったその感覚が怖くなり、できるだけ飲まないようにしてきました）、冷やしたり、早く寝るようにしたりすることでなんとか乗り切ってきました。ヘルペスの薬は本当に効きます。鎮痛剤ではないので、急激に痛みがなくなるわけではないですが、あまりひどくならないうちに飲むようにすることで、現在はほとんど問題なく生活できています。片頭痛については「休日に痛くなる」「忙しくしていてひと段落したときに痛くなる」と通説のように言われていましたが、なぜそうなるのか？ということについては、まったく触れられていませんでした。松本先生の「体の中にヘルペスウイルスが潜んでいて、免疫が活発になって、ヘルペスウイルスに抵抗し始めるときに頭痛が起こる」というのが、とても腑に落ちました。今は目の奥から頭、歯茎にかけてヘルペスの存在を感じます。ついつい夜更かしや考えすぎなどで、ヘルペスウイルスを抑え込んでるな～と思うので、できるだけ自分の免疫に負担をかけないようにしないといけないなあと反省しています。

<リウマチ→膠原病>

2011年5月

手荒れを治していただいてからも、定期的に免疫を上げる煎じ薬をだしていただき飲んでいたのですが、ある日TVで、「朝起きた時に手がこわばり、リウマチの症状に気が付きました。」と言っている人を見ました。私自身、指の関節もなんとなく痛く、接骨院の先生に見てもらったところ、「筋とか骨とかの問題ではないから、リウマチが怪しいかもしれない」と言われ、いよいよ覚悟を決め、次の診察のときに松本先生に相談しました。

毎回、待合室でいろいろ手記を読んでいたの、「リウマチかも」と思っても全く不安はありませんでした。血液検査ではリウマチの数値は問題なかったものの「膠原病」の数値がギリギリアウトでした。まだ治療中ですが、現在は痛みがかゆみに変わったところで、やはり煎じ薬を飲み、かゆいときには赤い塗り薬を塗っています。先生は「赤いのはかゆみ止めと違うよ」とおっしゃっていましたが、なぜか私には効くみたいで、かゆいところに塗ると、かっーと熱くなってそのうちかゆみが治まります。かゆくなくなるといいな～とは思いますが、赤い薬もあるので（笑）あせらずに続けていこうと思います。

<めまい>

2014年12月

手荒れも膠原病も片頭痛も、特に痛みがひどいとか生活できないくらいつら

いとか、そういったことがなく、のんびりと（さぼりつつ）過ごしてきたのですが、あわただしいこの年の年末に突然、めまいが起きました。朝起きたときにぐるぐる回るめまいがし、めまいが強いと吐き気につながってかなりつらかったです。自分の中では最大のピンチに思えました。すかさず松本医院へおじゃまし、先生に「めまいがつらいのでなんとかありませんか」と訴えたところ「めまいはヘルペスだから」とおっしゃり「アシクロビル」を限界まで出してくださいました。「1日10錠までは飲んでもいいからね」（※スタッフより保険適応となる用法は1日10錠までなので、当時は1日10錠までの処方にしていました。）と言われ、薬をもすがる思いで、毎日飲みました。また、めまい用の煎じ薬も出していただきました。明らかに症状が改善していき、歳が明けるところにはすっかり治ってしまいました！先生のおかげです。めまいは本当につらかったので、感謝の気持ちでいっぱいです。今のところ再発もありません。ときどき、「あ、いやな感じかも？」となるときがあるので、疲れがたまったり、ストレス過多にならないように気を付けたいと思います。

現在、かゆみに対する煎じ薬と、血圧のお薬をだしていただいておりますが、他にも「胃が重い」「お手洗いが近くなる」などなにかあるたびに先生に相談しています。先生の煎じ薬を飲みだしてから、ますます風邪をひかなくなりました。（免疫を上げているので当たり前ですが。）何より何かあったときに先生とお話しすると安心します。松本先生、いつも本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。